

リポジトリの過去・現在・未来

-71 サイトのトップページ比較を中心に-

浦上みつ子
順天堂大学学術メディアセンター

1. 背景と目的

リポジトリ大国と言われる日本では、医学部のある 82 大学の多くが何等かの形でリポジトリを構築している。インターネット上を流れるリアルタイムのリポジトリサイトを比較することで、過去の集積の結果でもあり未来につながる動的発信地でもある現在の姿を俯瞰したいと考えた。

各リポジトリの特色と地域性等との関連を調べ、多様なリポジトリのあり方とその背景を知ることが将来への展望につながるのではないかと考えた。今回はデザインなどアナログな面も取り入れて比較した。サイトの閲覧は 2019/8/2 から 2019/8/9 の期間に行った。

2. 方法

調査項目

① 各大学についての基本情報（所在地域、国公立の別、リポジトリ関係のプロジェクト・組織への参加歴、加盟状況、ランキングなど）

② リポジトリサイトの比較

医学部のある大学のリポジトリから 71 サイトを比較した。地域共同リポジトリや図書館 HP からメニューを選択する形式で独立性の低いサイトは原則除外した。但し一部の項目では取り上げた。

トップページまたはトップページに見出しでリンクのあるキャッチフレーズ、リポジトリの紹介文が、当該リポジトリの基本的なポリシーを反映していると考え、使用されている名詞、動詞、形容詞等 109 語を抽出した。「論文」「学術」「研究者」等の共通の頻出語を除外し、特色を反映すると思われる 56 語の使用頻度を集計し、11 カテゴリにまとめた。

また各サイトのネーミングやトップページのデザインの特徴を調べた。

③ ①と②のデータの相関を調べた。

3. 結果と考察

JAIRO Cloud の利用状況は東高西低で地域差が見られた。

草創期から公的なプロジェクト等に参画している大学のリポジトリは、多数のコンテンツと共に豊かなデザイン性があり、アナログ面でも学ぶところが多い。2018 年リポジトリ世界ランキング入りした 8 サイトはすべてこの“パイオニアグループ”から出ている。

トップページの傾向には幾つかのパターンがあり、サイバー空間でローカルな個性をアピールするタイプと、普遍化志向で個性や主張をあまり表に出さないタイプがあった。トップページにキャッチフレーズや紹介文のない、最初から同一目線の研究者をターゲットとしていると思われるパターンも多く見られた。

キャッチフレーズ、紹介文で使用される用語の使用頻度では、東西の地域差、設置母体による傾向の違い、JAIRO Cloud 利用と非利用でも違いが見られた。

以上